

In practice, interests of a third party can pull those of investors in the market.

実務上は、第三者の利益が市場の投資家の利益を牽引することがあるのです。

新株式の発行方法 (増資の方法)	メリット	デメリット
①金融商品取引法上の「募集」	最も透明性が高い。 投資家にとっては、自分の希望購入価格よりも低い価格で株式を購入できることが実務上は多い。	「募集」への応募が多い場合は抽選になり、購入を希望する投資家が必ず株式を購入できるとは限らない。 抽選が行われる場合は発行者の資金調達額が最大化されるとは限らない。 「募集」を行っても、理論上も実務上も応募が十分にあるとは限らないので、発行者にとっては目標とする金額だけ資金を調達できるとは限らない。
②株式市場内での発行 (発行者が株式市場に売り注文を出す。 発行者自身が市場内で売り進める。)  注:現在の日本の証券制度では不可能。	市場の投資家が買いたい価格で株式を購入することができる。 理論上は、発行者の資金調達額が最大化される。	投資家にとっては、発行者が一体いつどれくらいの資金を調達することになるのか事前には分からないので、将来予想が困難になる。 発行者自身が株式市場に売り注文を出しても、理論上も実務上も株式の買い手が十分にあるとは限らないので、発行者にとっては目標とする金額だけ資金を調達できるとは限らない。
③第三者割当	発行者は調達したいだけの資金を調達できる。 (すなわち、調達する金額が確定する。) 投資家にとっては、発行者がどれくらいの資金を調達することになるのかが事前には分かるので、将来予想が可能となる。	市場の投資家は株式の購入が一切できない。